

令和5年度 仙台第三高等学校学校経営

1 建学の精神・教育目標・身につけさせる資質・能力

★建学の精神
昭和38年

心身の健康 真・善・美の追求 愛と知の稔り

★教育目標
平成30年度

逞しく豊かな人間性

深く探究する態度

よりよき未来の創出

★生徒に身につけさせる資質・能力
令和元年度

自己管理能力

自己研鑽力

未来デザイン力

信頼構築力

課題突破力

社会牽引力

2 スクール・ミッション

本校は、「心身の健康, 真・善・美(広く調和のとれた教養)の追求, 愛と知の稔り(感謝と自他尊重の精神および知的態度)」を建学の精神とし, 逞しく豊かな人間性や深く探究する態度を身につけ, よりよき未来を創出できる人材を育成します。これまでのSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の学習を継続・発展させ, 地域の大学・研究機関・企業と連携し, 持続可能な実習フィールドの開発と利活用に取り組むとともに, 地域青少年の科学リテラシー向上に寄与する学校を目指します。

3 スクール・ポリシー

アドミッション・ポリシー

- ・主体性を持って様々なことに取り組み, 自律的・能動的に高校生活を送る生徒(普・理)
- ・基礎学力が身につけており, 学習に対して強い意識を持ち続ける生徒(普・理)
- ・部活動や生徒会活動に積極的に取り組み, 高いレベルでの文武両道を達成できる生徒(普・理)
- ・社会的問題や哲学的課題などを, 広い視野をもって捉え, 総合的な判断ができる生徒(普)
- ・論理性の高い自己の意見をもちつつ, 多様な人々と協調し, 問題発見・解決に向かう生徒(普)
- ・数学, 理科の分野において, 高い関心と適性を持ち, 強い探究意欲を有する生徒(理)
- ・課題解決のために, 粘り強く対象に取り組む生徒(理)

カリキュラム・ポリシー

- (普通科)
: 科学技術を活用できる人材を育成するため, 数学, 情報, 倫理などを含めた教科融合科目を設定し, 統計処理に必要なデータ分析を経験するとともに, 社会倫理と社会貢献について学習します。特に科学的な探究活動では, ESDやSDGsなど身近な社会問題のテーマを設定し, 産官との連携, ユネスコスクールのネットワークを生かした国際交流と共同研究により, 得られた課題の解決策を提案します。これらを学ぶことで, 新たな課題を提示し科学技術を有効に活用できる人材を育成します。(理数科)
: 発見・発明型の科学技術人材を育成するため, 数学, 理科, 英語に重点を置いた科目に加えて, 情報, 倫理, 芸術などを含めた教科融合科目を設定し, 仮説と実験・調査などの必要なデータ分析を経験するとともに, 研究倫理や先端研究での社会貢献について学習します。特に科学的な探究活動では, 大学や研究機関と連携して研究を進め, 得られた研究成果をコンテストや学会で国内外に発表します。これらを学ぶことで, 基礎研究を充実拡大し新しい科学技術を生み出す人材を育成します。

グラデュエーション・ポリシー

- ①自己管理能力: 心身の健康を維持するために, 健全な生活習慣を身につけ, 様々な壁を柔軟に乗り越えるしなやかさを持つ。
- ②信頼構築力: 相手の立場を思いやり, 尊重し, 互いに信頼関係を築くことができる。
- ③自己研鑽力: 人類が築き上げてきた真理を重んじ, それを教養として身につけることを通して, 自らの資質・能力を高めようとする。
- ④課題突破力: 困難な課題に立ち向かい, 解決するために, 個人の資質を高め, チーム一丸となる実力を持つ。
- ⑤未来デザイン力: 未知なるものに立ち向かうために, 自己の可能性や周囲の可能性を信じ, 能動的に知性を高め行動していく。
- ⑥社会牽引力: 他者理解力・思考力など総合的な判断力をもって, 集団を牽引し, 社会貢献し, 共生して生きていくこと。

スーパーサイエンスハイスクール(第Ⅲ期 令和4年度～8年度)

「尚志ヶ丘フィールド」を舞台にした持続可能な社会を共創する科学技術人材の育成

4 学校経営方針

生徒と教職員がともに進化する「学習する組織」「学習する学校」

5 重点目標

(1) 教育活動の充実

- ①SSH授業作りセンターを中心とした指導方法の充実
- ②第Ⅲ期SSHの基盤づくり
- ③ICT学習を通じた「情報活用能力」の育成
- ④国際理解教育を始めとしたグローバル対応力の育成
- ⑤地域の教育力の活用
- ⑥県外学校等との交流
- ⑦新たな教育課題への対応

(2) 教育目標の具現化

- ①学校教育目標の実現
- ②6つの資質・能力の具現化
- ③スクール・ミッションとスクール・ポリシーと学校活動の実際
- ④スクール・マネジメント

(3) 学校組織の進化

- ①校務分掌に捕らわれないチームを意識した業務遂行
- ②連絡調整に基づくスケジュール管理による業務の効率化
- ③進路実現に向けたキャリア教育
- ④社会教育資源, 地域資源を活用した活性化
- ⑤危機管理に強い組織
- ⑥たゆまぬ研修・研鑽

(4) 生徒の活動充実

- ①生徒が参画する学校行事・運営の充実
- ②第一志望進学実現に繋がる課外活動
- ③挨拶する教職員と生徒
- ④各種コンクール, コンテストへの積極参加
- ⑤全国の高校との交流活動